

令和2年度 年間指導計画を見直す際の参考資料

中学校 第2学年 「数学（数研出版）」

(★) は移行内容

74時間（70%）

週	指導事項	単元名	小単元名	時間数	留意点			
1 2 3	A(1) ア(ア)(イ) ウ(エ) イ(ア)(イ)	1. 式の計算	1-①単項式と多項式	1	・とびらと合わせて扱う。			
			1-②多項式の計算	3	・連立二元一次方程式を解くのに必要な整式の加法、減法を中心に扱う。			
			1-③単項式の乗法、除法	2				
			1-④式の値	1	・1年次の学習と関連付けながら式の値を工夫して求める。			
			確かめよう		・1-③④の時間や家庭学習を利用する。			
			2-①文字式の利用	2	・数に関わる性質を見だし、文字を用いて表現、考察する活動を取り入れる。			
			2-②等式の変形	1	・Qや例2を用いて、目的に応じて式を変形することのよさを扱う。			
			確かめよう		・家庭学習を利用する。			
			11時間	基本の問題、章の問題、単元末テスト等	1			
			4 5 6	A(2) ア(ア)(イ) ウ イ(ア)(イ)	2. 連立方程式	1-①連立方程式とその解	1	・とびらと合わせて扱う。
1-②連立方程式の解き方	3							
1-③いろいろな連立方程式の解き方	2	・練習問題は家庭学習も利用する。						
確かめよう		・1-②の時間や家庭学習を利用する。						
2-①連立方程式の利用	3	・1-③の小数、分数の計算等の学び直しも扱う。						
確かめよう		・2-①学習時の練習問題として家庭学習で行う。						
10時間	基本の問題、章の問題、単元末テスト等	1						
7 8 9 10	C(1) ア(ア)(イ) ウ イ(ア)(イ)	3. 1次関数	1-①1次関数	1	・とびらと合わせて扱う。「一次関数として見なすこと」は3-①で扱う。			
			1-②1次関数の値の変化	1				
			1-③1次関数のグラフ	4	・xとyの対応を求める際に電卓を用いるなど、グラフをかく活動を工夫して行う。			
			1-④1次関数の式の求め方	2				
			確かめよう		・1-①②の時間や家庭学習を利用する。			
			2-①2元1次方程式のグラフ	2	・教科書や方眼用紙の利用等、グラフを短時間でかく準備をする。			
			2-②連立方程式とグラフ	1				
			確かめよう		・2-①の時間や家庭学習を利用する。			
			3-①1次関数の利用	2	・一次関数と見なして未知の状況を予測し、その理由や切片と傾きの意味を説明する活動を扱う。			
			確かめよう		・家庭学習を利用する。			
			14時間	基本の問題、章の問題、単元末テスト等	1	・基本の問題は内容を学習した次時の開始時に、前時の復習問題として扱う。		
			11 12 13 14	B(1) ア(ア)(イ) イ(ア)	4. 図形の性質と合同	1-①直線と角	3	
						1-②三角形の角	2	・解法や説明の根拠を丁寧に扱い、証明の素地を養う。
1-③多角形の内角と外角	2	・「※時間数の精選方法」参照。						
確かめよう		・1-①～③の練習問題に利用する。						
B(2) ア(ア)(イ) イ(ア)(イ)	2-①合同な図形	1						
2-②三角形の合同条件	2							
確かめよう		・家庭学習を利用する。						
3-①証明のしくみ	3							
確かめよう		・3-①の練習問題として扱う。						
14時間	基本の問題、章の問題、単元末テスト等	1				・基本の問題は内容を学習した次時の開始時に、前時の復習問題として扱う。		
15 16	B(2) ア(ア)(イ) イ(ア)(イ)	5. 三角形と四角形	1-①二等辺三角形の性質	2	・(P.135)基本の問題も扱いながら進める。			
			1-②二等辺三角形になるための条件	1				
			1-③直角三角形の合同条件	2	・(P.139)で、具体的な場面で活用することを扱う。			

17 18			確かめよう		・家庭学習を利用する。
			2-①平行四辺形の性質	2	・読んで根拠を考える活動を取り入れるなど、平行四辺形の性質の証明を工夫して扱う。
			2-②平行四辺形になるための条件	3	・(P. 140) Qを振り返って日常の事象と学習内容の接続を図る。
			2-③特別な平行四辺形	2	
			2-④面積が等しい三角形	1	
			確かめよう		・2-①～④の時間や家庭学習を利用する。
		1 4時間	基本の問題、章の問題、単元末テスト等	1	・基本の問題は内容を学習した次時の開始時に、前時の復習問題として扱う。
19	D(1) ア(ア)(イ) イ(ア)	6. 資料のちらばり (★)	資料のちらばり	3	・(P. 14, 15) 箱ひげ図や代表値など複数の視点から多面的に考察する活動を扱う。
20 21	D(2) ア(ア)(イ) イ(ア)(イ) 1年D(2) ア(ア) イ(ア)	7. 確率	1-①ことがらの起こりやすさ	1	
			1-②確率	2	
			1-③いろいろな確率	4	・樹形図や二次元の表などを用いた確率の求め方や確率を基に自分の考えを説明する活動を行う。
			確かめよう		・家庭学習を利用する。
			基本の問題、章の問題、単元末テスト等	1	・基本の問題は内容を学習した次時の開始時に、前時の復習問題として扱う。
		8時間			

※時間数の精選方法（例）

○授業中の問題を精選する。

- ・生徒の実態に応じて授業中に扱う教科書の練習問題を精選し、残りは家庭学習の課題にするなど、単元における学習を図ります。
- ・例えば、定着度が低い分数の計算は授業中に扱い、整数の問題は家庭学習を利用することが考えられます。家庭学習部分につまずきが見られた生徒に対しては、解法やポイントをまとめたプリントを配布する、小単元の末に余剰時数を使って補充の時間を設定する、校内で連携した個別支援を実施するなどの対応をとることが考えられます。

○指導内容を基に、扱う活動や解法を精選する。

- ・複数の解法がある問題については、本時のねらいの達成に必要な解法を精選して扱うことが大切です。
- ・例えば、連立方程式の利用の場面では、方程式を解く方法は1つだけ（選択した生徒が少ない代入法のみ）を扱うことが考えられます。
- ・逆に、例えば、P. 106からの多角形の内角の和を求める活動では、複数の求め方を比較検討することで、三角形に着目して求め方を統合し、三角形に帰着して図形を考察するの有用性に気付かせることが大切です。

○指導と評価の一体化を重視した継続的な指導を行う。

- ・数学は既習を活用しながら学習を進めるため、学習内容を復習することができます。授業中の問題練習量が不足する分、ノート指導の充実を通じて、どこで学習したのかを明確に示し、学び直しの機会を意図的に設定することが大切です。
- ・限られた時間の中で生徒の学習状況を適切に見取り、指導と評価の一体化が図られた授業を通じて基礎基本の定着を図ります。

- 平成29年度告示の指導要領解説数学編を基に、資料を作成しています。